

仙台市公民館運営審議会議事録

(令和4年5月定例会)

○ 日 時

令和4年5月19日(木) 午前10時30分～12時00分

○ 会 場

生涯学習支援センター 5階 第一セミナー室

○ 出席者

[委員] 相澤雅子委員、市瀬智紀委員、伊藤美由紀委員、大内幸子委員、菅原正和委員、鈴木京子委員、牧靖子委員、松田道雄委員、三浦和美委員

(欠席：幾世橋広子委員、熊谷敬子委員、佐藤正実委員、福士定男委員)

[事務局] 生涯学習支援センター長 武者
生涯学習支援センター次長 内海
生涯学習支援センター事業係長 横山
青葉区中央市民センター長 佐々木
宮城野区中央市民センター長 石川
若林区中央市民センター長 梅沢
太白区中央市民センター長 猪股
泉区中央市民センター長 内海
生涯学習課長 田村
公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
市民センター課長 佐藤
(欠席：生涯学習部長 柴田、地域政策課長 市川)

○ 傍聴人

なし

○ 資 料

次第

資料1：住民参画・問題解決型学習推進事業の成果と課題について(事務局まとめ)

資料2：市民センター事業説明書「中野ふるさと学校」

資料3：市民センター事業説明書「かつら情報局」

資料4：本日の協議の進め方について

※ 会議の概要

1 開 会

事務局：おはようございます。

本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年5月の仙台市公民館運営審議会を開催いたします。

はじめに、お手元の資料の確認をお願いいたします。

次第と資料1～4を事前送付しております。皆さんお持ちいただけましたでしょうか。それから、グループ討議時のレイアウト図と、「まなびのカタチ」という冊子2冊をお配りしてあるかと思えます。お揃いでしょうか。

本日は、幾世橋委員、佐藤委員、福士委員、熊谷委員、以上の4名から欠席のお返事をいただいております。それから三浦委員につきましては、若干遅れるとの連絡を受けております。

本日は三浦委員を含め9名。今こちらにいらっしゃいますのは8名となります。委員の過半数は7名でございますので、いずれにいたしましても、出席要件は満たしているところでございます。市民センター条例施行規則第10条第3項の規定により、有効な会議として成立しているということを宣言させていただきます。

本日の会議は、令和4年度に入りまして初めての会議でございますので、冒頭、生涯学習支援センター長より、一言ご挨拶を申し上げます。

2 挨 拶

生涯学習支援センター長：皆様おはようございます。

本日はご多用の中、本審議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。日頃より、市民センターの運営と事業活動へのご理解ご協力に厚く御礼を申し上げます。

私ですけれども、4月から生涯学習支援センター長に着任いたしました。3月まで市民局におりまして、その前は市民図書館ということで、いずれも地域づくり、そして社会教育の点で、生涯学習支援、市民センターと、非常に関わりの深い部署だったというふうに考えております。こちらでも引き続き鋭意務めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年度は、コロナ禍の3年目ということですのでけれども、5月に入りまして、仙台の初夏を彩るハーフマラソンですとか、青葉まつりですとか、そういった元気を街にもたらす行事も無事に行われたということで、私自身も本当に、仙台市の職員としても、一市民としても、非常に嬉しく思っているところでございます。

市民センターの利用状況にも、活気が少しずつ戻っております。感染対策の継続は大前提となりますけれども、様々なイベントとか活動が再開に向かう時期というふうに受けとめているところでございます。市民センターが市民のための、学びの場、交流の場、地域づくりの場として機能できるように、これまで以上に努力をしてみたいと考えております。

今期の審議会ですけれども、住民参画型学習事業について諮問させていただいております。

ご存じのとおり、住民参画型学習事業——こちらは三つのカテゴリーからなっております、我々通称で「子ども事業」、「大人事業」、「若者事業」というふうに呼んでおりますけれども、前回の審議会におきまして子ども事業について事例報告とご審議をいただいたという経緯がありま

して、本日はこのうち、「大人事業」、正式名称を申しますと「住民参画・問題解決型学習推進事業」とちょっと堅い名前になっておりますが、こちらについて、事例発表をもとに、ご審議をいただきたいと考えております。

小グループに分かれての審議も予定しておりますので、どうぞご忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局：続きまして、事務局より、本日の出席職員を紹介させていただきます。

〔出席職員紹介〕

事務局：なお、公民館運営審議会の概要、あるいはその議事録、会議の様子につきましては、市民センターのホームページにて公開しております。

ただいまスクリーンに投影しておりますのが、前回3月のグループ討議の状況でございます。これは写真も含めてホームページにアップしておりますので、この場においてあらためてお知らせいたしたいと思っております。

それでは、ここから議事に入りますので、会長をお願いいたします。

会長：はい。皆さんよろしくをお願いいたします。ではさっそく始めさせてください。

この会議は原則公開となっておりますが、傍聴の希望はございますか。

事務局：本日はございません。

会長：はい。原則公開ということについて、今スクリーンに投影されておりますけれども、我々のスマホで「仙台市公民館運営審議会」で検索すると、この定例会の様子も出てくるんですね。

先ほど教えてもらったのですが、「会議の様子」というのが下のほうにありまして、そこをクリックすると、この写真も出ます。ですので、まさにデジタル社会での公開というのも着々と進むのかなと思うのですが、引き続きよろしくをお願いいたします。

では、議事録の署名委員ですが、名簿順で、前回のご退任なされた安藤委員にお願いしました。今回は市瀬委員にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

3 協 議

会長：では、3の協議に入ります。

「住民参画・問題解決型学習推進事業」について、事務局より説明をお願いいたします。

なお、先ほどセンター長からお話しいただきましたように、のちほど小グループでの深め合いをさせていただきますので、それを念頭に入れながら、説明を聞くことにしましょう。

では、よろしくをお願いいたします。

事務局：はい。それではすみません、着座にてご説明いたします。

お手元の資料1をご覧くださいと思います。どの事業も成果と課題についてご説明いたしますが、これは小グループに分かれての討論の際に、話題としてお使いいただければなというふうな意図でつくった資料です。

この資料の出典は、前回の審議会資料でもお示ししましたが、「住民参画・問題解決型学習推進事業」実施報告書、ならびに、具体的なその事業の成果と課題をまとめました、お手元にも配付させていただきましたが「まなびのカタチ」をもとに作成したものです。

地域づくりへの広がり、それと市民センターの役割、事業手法の視点。この二つの視点からまとめたものでございます。主要なところに下線部を引いておりますので、この下線を引いた部分を中心に説明をさせていただきます。

1 ページ目でございます。まず実施報告書よりです。第1期でございますけれども、新たな人材が発掘されて、主体的な活動が生まれ始めているという状況が生じております。それが第2期目に移りますと、受講者が段階を追って主体的に事業に関わるようになってきている、という動きがみられてきているということがございました。第3期になりますと、自主サークル化して活動を継続する団体や、新たに地域課題を発見し、解決に向けて取り組む団体も出てきている。というふうなことで、期間を追うごとに取組内容が深まってきているという様子がかがえるのではないかなと考えているところです。

それから「まなびのカタチ」のほうですけれども、一つは、この活動をきっかけに、地域に伝承する昔話や文献を調べようという活動の幅が広がってきたというのがございます。それから月に1回「子どもの広場」というのを定期的で開催していたところ、それが地域活動として子どもや保護者に認知されるようになり、子どもと大人がともに活躍する場として地域に定着してきているという状況があります。それから、やはり地域を牽引して来た方々の高齢化が進んできているという状況から、地域の若い世代から企画員を募って講座を企画してもらって実施したところ、各世代の参加者より定員を超える申し込みがあったという事例がありました。

裏のページにお移りいただきたいと思います。それから、市民センターを拠点として活動する「おやじの会」を立ち上げたわけですが、やはりどうしても人手不足で、将来自主運営に移るのがなかなか難しい。新規メンバーの加入促進が不可欠であると。

こういった成果、あるいは課題をこちらの方であげております。

それから二つ目の視点の、市民センターの役割、事業手法の視点からです。

まず、実施報告書より抜粋ですが、第1期で、多くの区中央市民センターが地区市民センターと協働しながら事業を進めてきたということがスタートです。それが第2期目になりますと、地区市民センター主導による事業実施館が増加してきていると。第3期目になりますと、住民が主体的に考えながら活動し、自己有用感や課題解決に取り組む意欲の向上につながっているという変遷が見られてきているということです。

次に「まなびのカタチ」の中からですが、一つには、若い世代の参画者をふやし、次世代の担い手育成につなげていきたい。幅広い年代の住民が一体となって取り組んでいきたい。それから、講座終了後も勉強を続けていきたいという意欲的なメンバーが多いことから、講座終了後のサークル化なども視野に入れながら、案内人同士のつながりを深め学びあっているように支援していきたい。こうした、これはいわば市民センターのねらいといいますか、考えが述べられているところです。

この事業を実施したことによって、いわば学びの種が徐々に地域の中に根付いて花開きつつあ

るということがいえるのではないだろうか。住民が主体的に事業に参画する動きが現れてきていると、こういった成果が認められるのではないのかなと考えております。一方で、その次の世代を担う若い人達の参画、これが一番の課題であるということがいえるかと存じます。

これだけの資料から本当にそういうことがいえるのかというのはありますけれども、調べていく過程で、やはり主体的に事業に参画する方々が、ここ 10 年でふえてきているというのは確かなのではないかなというふうに考えているところです。

事務局からは以上でございます。

会長：ありがとうございます。今の説明について、何か質問ございますでしょうか。

[質問なし]

会長：では続いて、具体的な事業の事例として、二つの事例を今から説明いただきたいと思いますが、それをご説明お願いいたします。

事務局：それでは引き続きまして、事業の具体的な実施状況の一例といたしまして、高砂市民センターが実施しております「中野ふるさと学校」、それから桂市民センターが実施しております「かつら情報局」の様子について、ご紹介したいと存じます。

それではまず、「中野ふるさと学校」に関しまして、宮城野区中央市民センターよりご説明をいたします。それではよろしく願いいたします。

宮城野区中央市民センター長：今回発表の機会をいただきありがとうございます。

宮城野区は地区館が合計 10 館ありますけれども、その中で非常に活発に活動している高砂市民センターの事例でございます。

もともとは地域の方々からの声をきっかけに立ち上がったサークルだったのですけれども、震災以降、心の拠りどころを求めて、ということで始まったものではあるものの、決して後ろを振り返るだけではなくて、前向きに様々な事業に取り組んでいるということがあります。

一つの成功事例として——現在進行形ではありますけれども、我々のほうでも他の地区館に対しても紹介するのによく使っている事例でございます。

きょうは、現在の担当主査兼社会教育主事の方から、詳細につきましてはご説明をいたします。

宮城野区中央市民センター主査兼社会教育主事：私の方から「中野ふるさと学校」を紹介させていただきます。

現在は高砂市民センター——地区館の担当している事業となりますが、かつて、数年前までは宮城野区中央市民センターも共催という形で事業の立ち上げに関わっていたという経緯もございます。

本日の発表は、事前にお配りさせていただいております事業説明書ののっとり説明させていただきますので、そちらをご覧くださいと思います。途中、活動の様子、わかりやすい写真、資料等は、画面を使いながらご説明させていただくこともあります。

では、資料 2 をご覧ください。中野ふるさと学校事業のねらいになります。

一つ目ですが、中野・蒲生地区の旧住民とともに、震災によって失われた歴史や文化の継承、そして旧住民の地域の絆を大切にしながら、心の復興を目指す。震災からの復興という大きなテーマに基づいてスタートした事業になります。

二つ目ですが、地域の歴史の継承や新たな魅力の発信、そして人々の再会と出会いの場づくりとなる事業を開催し、心の復興と地域の活性化を目指すというねらいに基づいて進められている事業になります。

立ち上げの経緯を、当時館長を務められた方からお聞きしました。事業の始まりは平成 26 年からになります。その前年度に地域住民の方から、地域のために何かしたいという申し出が、高砂市民センターにあったそうです。そしてその相談を受け、地域住民と高砂市民センターの当時の館長を含めた職員の皆さんと相談して、講座「中野ふるさと学校」が始まりました。中野にかつてあった四つの町内会の強力なバックアップもあり、事業を実施することができたという話を聞いております。

宮城野区中央市民センターとの共催は令和 2 年度まででございまして、令和 3 年度、昨年度からは高砂市民センターの事業として運営されております。

次に、資料の事業内容（手法）のところをご覧ください。

(3) の活動内容になります。毎月 1 回定例会を開催し、そのときの事業の内容を、役割分担を含めて検討して進めております。市民センター講座「中野ふるさと学校」と市民団体「中野ふるさと YAMA 学校」との共催事業として進められています。中野ふるさと YAMA 学校が市民団体というような形で、そのメンバーが高砂市民センターの講座の中に入り、ともに相談しながら事業を進めるというような運営形態になっております。

事業（講座）の主な内容になります。定例の会議、そして、ふるさと交流事業としてダーツ交流会などがございます。画面のほうを今から映したいと思います。

[スクリーンに資料投影]

宮城野区中央市民センター主査兼社会教育主事：スクリーンに映しております写真がダーツ交流会です。こちらのダーツ交流会は、かつてそこにいらっしゃった蒲生の地域住民の皆さんの拠りどころとして、年 1 回定期的で開催して、皆さんで顔を合わせる。そういった貴重な機会になっております。

また、公開授業の開催というのもありまして、今年度は、かつて仙台市科学館にお勤めだった講師の先生をお招きして、蒲生地区の震災後からの数年間の環境の変化、そこに生息する生き物などについての勉強会を実施しました。

また、資料の 2 枚目になりますが、日和山周辺の海辺の環境保全活動。こちらも今年度の取組として行っております。写真は今年度冬の時期に行ったものです。日和山周辺のところに、プラスチックごみですとかいろんなものが落ちている。そういったことに継続的にかかわって清掃活動することで、環境保全につながるような活動にしていきたいということで、今年度研修も含めて始めて、これから定期的で開催していこうと考えている一つになります。

そうした事業を年間の中で話し合いながら進めていく中で、広報についてのチラシの紹介、あとは成果報告会での成果発表、あるいはこのような形で（投影画面を示す）高砂市民センターのホームページで公開するというので、地域の方々にもその活動の様子をご覧いただいていると

いうふうになります。

それでは、資料の2番の、3、4のところの説明をさせていただきます。

新型コロナウイルスによる影響として、一つは7月の第1週の日曜日に行っておりました日和山の山開き登山。こちらが、かつては大人数でやっていたのですが、コロナウイルスの影響を受けて、今は関係者を中心とした登山という形で、人数をある程度絞って実施しております。

4番、令和3年度の取組みにつきましては、先ほど申し上げたダーツ交流会、日和山登山、日和山周辺の環境保全活動、そして環境に関する自主勉強会といったことを年間通して活動しております。

資料の後半にまいります。これまでの経緯も含めての、成果と課題の部分になります。

成果としましては、日和山登山——蒲生地区を象徴する日和山について、広く市民の方に認知されるようになりました。市民センターで、日和山に登山したとお話していただくと、登頂証明書というのを発行しております。平日でも、日和山に足を運んで実際にその場に訪れたということで、市民センターの方に報告をしてその場で登頂証明書を受けとるという方が、年間数百名いらっしゃるということを聞いております。

あとはダーツ交流会なども定例の行事として、皆さんの心の拠りどころになっているということで、活動が広く知られるようになりました。

令和3年度は、日和山登山、日和山関係についての取材、ダーツ交流会の取材、新聞社からの取材の依頼もあり、メディアで取り上げられることもふえてきたということでした。

また、講座として長年、年月を重ねていることで、企画員の結束が強くなったという点も成果としてあげられるかと思えます。

課題の部分については、未来志向の事業運営というフレーズになるかと思えます。

これまでは、震災を乗り越えるための心の復興という大きなねらいがありましたが、震災から10年を超えたというところで、ここからは未来につながる地域交流——未来というキーワードが課題としてあげられています。その手立ての一つとして、日和山周辺の環境を未来に残すために活動をするということで、昨年度は環境保全活動、ごみ拾いなどが行われ始めたというところになります。

そして、これらの数年間の活動が全国でも認められまして、令和4年2月、これまでの功績を認められて全国優良公民館表彰を受けております。この賞としては、最優秀館1館に次ぐ、全国5館のベスト5に選ばれたということになります。

そういった形で、現在高砂市民センターを拠点に活動しております。今年度もそれをさらに継続してというところで、市民企画員の皆さん、そして高砂市民センターの職員の皆さんが精力的に活躍されております。

簡単ですが、私の方から説明をさせていただきました。

事務局：ありがとうございました。

引き続きまして「かつら情報局」に関しまして、泉区中央市民センターより説明をいたします。

泉区中央市民センター長：本日は「かつら情報局」の取組みについてご紹介をさせていただきます。

詳しくは泉区中央市民センター主査からご報告を差し上げますが、まず、事業のねらい、それから成果と課題について、簡単に私のほうから前もってお話しをさせていただきます。

桂地区では、現役世代の方が町内会の役員になられたということで、担い手不足が叫ばれている中、新しい取り組みが行われているところでございます。

地域の課題といたしましては、今使われている LINE 等の SNS での情報発信の方法——いろいろ現役世代の方々が使っているかもしれませんが、町内会の中での、回覧板などの情報伝達の仕組みというのは、まだまだ改善できるところがあるのではないかと。それから、年齢層等による情報機器の使い方や馴染み方というのにも差があるのではないかと。デジタルデバイドというふうに、これからの説明の中で申し上げますけれども、そういった情報伝達に関する課題があるのではないかと。また、ここ数年のコロナの感染症拡大によって、皆さんが物理的に顔を合わせる機会が少なくなっている。これももう一つ課題だということで、今二つの課題があると思われれます。

これらの解決の道筋といたしますか、支援をしていくための手段として、今、地区市民センターの桂市民センターで「かつら情報局」という事業を展開しております。また、区の拠点館としての泉区中央市民センターは、桂市民センターの取り組みの内容を、多くの市民の方々あるいは他の市民センターの職員の方々にも、地域課題の解決の一つの手法ということで紹介をして、何らかの活用をしていただくと。そういう、他に広めるという役割を、区中央市民センターの方では担いたいと思っております。

成果といたしましては、これからご説明申し上げますけれども、桂音頭のリニューアルとか、あるいは連合町内会のほうでスマートフォンを使った新たな連絡のシステムを立ち上げるなど、かつら情報局としての成果は出ております。また区拠点館としても、この桂市民センターの取り組みについて様々な方面での事例の紹介を行ってきておりますので、一定の成果は出てきていると思います。

課題といたしましては、いずれにしても、今後ともなお継続していく必要があるだろうと。一過性で終わらずに、さらに情報機器についての使い方等について詳しく。それから、デジタルデバイスの中でも見られます、その心理的な垣根——使い方がわからないとか、どうなるのか、といった垣根を下げていくような活動も含めまだまだ継続していく必要があります。また、区拠点館としても、今後も区内の市民センターにも事業の成果とか課題もお知らせしまして、意見交換の材料にしていきたいと思っております。

長くなりましたが、成果と課題は以上でございます。

それでは、主査の方からご報告、また本日は桂市民センターの館長にもおいでいただいておりますので、現場でかつら情報局を運営していく中での、補足のご説明等もさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

泉区中央市民センター主査兼社会教育主事：それでは、桂市民センターの住民参画・問題解決型学習推進事業「かつら情報局」についてお話しします。

[スクリーンに資料投影]

泉区中央市民センター主査兼社会教育主事：昨今のコロナの影響で、地域住民の交流が減っていること、そして、町内会の情報伝達に関する課題があることを受け、ねらいは二つあります。

まず一つ目は、住民の交流の機会の創造です。二つ目は情報格差、いわゆるデジタルデバイド

の解消。これらが挙げられるなというふうに考えられます。

まず、はじめに住民の交流の機会の創造です。

中心に据えたのは、「桂音頭」の令和版の制作、そしてそれを広める活動です。

小学校の運動会で実際にもう利用されております。小学校の子達が運動会で踊る。その踊りを教えるために、桂音頭を広めるためのメンバーがそこに行って、教える活動をしております。加えて、地域の包括支援センターさんと協力しまして、健康体操として利用していくということも計画しております。また、アレンジ版をつくりまして、桂市民センターは児童センターと併設館ですので、その児童センターの子ども達にダンスとして教えるということもしております。

言葉ではちょっと説明がわからないと思いますので、実際に聞いていただきたいと思います。映像はないですけども。中に、J-POP 版というのがありますが、アイドル版という表現になっております。それはなぜかという、地域の方がアイドル版、アイドル版と呼んでおり、このスライドだけアイドル版という表記になっておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

かなり短縮版になっておりますので、長いバージョンをお聞きになりたい方は、桂市民センターの方にお問い合わせいただければと思います。

[桂音頭音楽再生]

泉区中央市民センター主査兼社会教育主事：以上になります。

一番初めの曲を聞いていると、後半のほうのアイドル版と HIP-POP も、ああわかるなという感じが伝わると思います。このようにして広めていきたいと、かつら情報局のメンバーが考えています。今後いろんな場面で活用していきたいと考えております。

続いて、交流の機会の創造の後の、情報の収集と発信のほうも行っていきます。

桂作品展。実際にコロナで活動を制限されているサークルさんが沢山あるので、桂市民センターのロビーを活用して作品を展示したりとか、そういった活動もしていきたいという話がありました。また、ロビーで地域の活動団体の情報を発信していくといった活動もことは計画しております。

二つ目のデジタルデバイドの解消ですけども、まず、心理的な解消ですね。やはり、プログラミングと聞くと、それだけでもう拒絶反応を起こす方がいらっしゃるの、そうではなくてこんなに身近なところにあるんだよということを伝えたいという町内会長の思いがありまして、まず初めにドローンのプログラミング講座をしました。プログラミングによって、ドローンがこういうふうに飛んでいくと。今現在、飛行機も自動運転ですし、車ももう少しで自動運転化されていく。子ども達は自動運転っていうのはこういうものなんだというのを、かなりイメージがつかみやすいという感想が挙げられました。

二つ目が、ゲームプログラミング講座です。実際にゲームをつくってみて、ゲームはどういう構造になっているのかを学ぶ講座を行いました。つくったのはインベーダーゲームです。喫茶店にありましたよね。ガラスのテーブルの。あれと全く同じものを子ども達とつくって、あと実際にゲームを体験していたお父さん達も一緒になってかなり盛り上がりながら、体験していました。

次に、技術的な解消として、高齢者の方は LINE に対してかなり抵抗感があるので、LINE の使い方講座を、グループをつくって、意見交換をするところまでやりました。実際やってみると、もうすごく楽しくなってしまうと、こっちでも制御できないくらい勝手にグループを立ち上げて

ピコピコピコピコ止まらなくなってしまうんですけども。やっぱりやってみると楽しいということが伝わりました。

センター長からもありましたし、課題のところでもお話ししますが、やっぱり、その場限りで終わってしまうので、これを継続していくというところが一つ課題なのかと思います。

加えて、今年考えているのが、スマホの使い方講座です。ことしはこれをやっ払いこうかなという話がありました。なぜなのかというと、LINE 講座をする中で、情報の伝達はできるようになったけれども、スマホにきたこのデータどうやって印刷するのか。それがわからない。もしかしたら、スマホ自体の使い方がわかっていないのではないかなど。ここで課題が見えてきたので、今年はそのところに焦点を絞って進めていこうかという話が、今挙げられています。

コロナウイルスによる影響ですけれども、まず3年度は、LINE 講座を2回計画していたのが、後半の1回が中止になっております。あと桂作品展の方も中止になっております。

今年の取り組みは、まず桂音頭の活用です。先ほどちょっとお話ししましたがけれども、児童センターのほうで桂音頭のアイドル版の方でダンスを踊っていくという活動を計画しています。次に先ほどお話ししましたスマホの活用講座です。あとはロビーの作品展の実施です。

成果ですけれども、まず桂音頭は地域住民の連帯感はもうかなり向上しております。また各種講座は地域住民の方がお手伝いに入ることによって、地域住民の絆づくりの一助にもなっております。

あと、課題改善点ですが、情報機器を活用した講座は、やはり継続してやっていくことが必要ということが挙げられています。

今後の展開ですけれども、まずはより多くの団体と連携していく必要があります。次に情報ツールを理解していく講座をやはり継続的な意味で実施していく。それから桂音頭をより活用していく。あとは情報活動、ロビーでの情報発信等がこれから必要として挙げられています。

以上になります。

では、かなり駆け足になったので、足りない部分を桂の館長からお話しただけだと思いますので、お願いします。

桂市民センター館長：まず初めに、ここまで桂がこれたこと、泉区中央市民センターさんの本当にご理解とバックアップがあつてここまで来ました。本当にありがとうございました。

かつら情報局が始まったのは平成30年度。なかなか進んでこなかったのですが、このコロナ渦の中で、町内会の方々が、いろんな行事がなくなったので、逆に力をこちらに入れることができる。あとは予算がだいぶ余剰ができた、それをこちらに入れられることができたので、令和2年の末からだいぶ進みました。

まず、桂音頭につきましては、「桂音頭を踊り隊」という任意団体ができまして、泉区の方のまちづくり推進活動助成金のほうで予算をいただきました。また、町内会のほうのネットワーク化につきましても、令和2年度の末に、連合町内会の役員会の方に説明しまして、令和3年度に予算化されて、それで運用を始めることができました。そうやってどんどん自分達の中でやっていくような形ができたのは、本当に嬉しいことだと思っています。

そこでやはり、市民センターの役割としては、いろんな団体とその団体をどうつないで活用していくのか、そんなことが中心になっています。今、連合町内会長や各団体と話しているのは、継続可能な安心安全なまちづくりという形で、これらを活用していけないかということです。

例えば、桂音頭につきましては、今主査の方から説明があったように、下が幼稚園、上はもうご高齢の方まで一緒にできるような形で——音頭をつくったときに踊りのビデオもつくりましたが、ちょっと 80 代の方が 4 番まで踊る体力がない。だったら座って踊りませんかということでやったところ、じゃあそれを高齢者向けにつくって見ないかという形で、健康体操をやろうと。今度はそれを社協、あとは老人クラブ——豊友会といいます、そちらのほうで定期的に町内会の集会所を使ってやってみないかと。

桂音頭は小学校でも踊ってもらっていますが、10 年前にも一度踊ったんです。ところがやっぱりリズムが遅いので、子ども達が飽きてしまった。それでアイドルバージョンを使ってやっているかということで、ことし 1 年間それを模索して、来年あたりから小学校の方でもアイドルバージョンができればということで、今、進んでいるところです。

あと ICT 化については、仙台市内も調べましたが、なかなかやっているところが少なく、それで全国的に調べたところ、町内会のネットワーク化に取り組んでいる企業がございまして、その「結ネット」というものをこちらで使えないかということでやっています。連合町内会、単位町内会、あと各団体の会長さん委員長さんに ID がありまして、お互いすぐに情報を流しあうことができます。ただその下部組織のところになかなか情報が行かないので、そこは LINE などを使って共有することができないか。そんな形で LINE 講座、スマホ講座につなげています。

詳しいことについては、わかったときに話ができればなと思っております。

どうもありがとうございました。

会長：ありがとうございました。

それでは、本日の協議のこれからの進め方ですが、先ほどからお話しがありました、小グループでの討議ということで、皆様よろしいでしょうか。

〔異議なし〕

会長：では、具体的な進め方について事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは、資料 4 をご覧いただきたいと思います。

これから三つのグループに分かれて、これまでの資料の発表を含めまして、いわゆる大人事業の成果と課題について、今後期待することも含めて、よりよい事業とするために意見交換を行っていきたく。この二つの事業に限らず、広く意見をいただければと思います。

ただ、時間がだいぶ限られておりまして、進行の要領ですが、これからすぐグループ分けを行います。お手元に配付しているレイアウトのとおりです。グループ討議で大体 25 分ほど取りたいと考えております。

進行は当センターの社会教育主事が行います。議論の内容は進行役がホワイトボードに記録し、見える化しながら行っていきたくと思います。担当社教主事はこちらにあるとおりです。

グループ討議が終わりましたら、各グループの議論の内容につきまして、担当した社会教育主事より報告をいたします。

最後に意見交換——まとめのところですね、本日の議論や報告に対しての意見、感想、質問等を各委員からちょうだいいたしまして、本日の協議のまとめとしてまいりたいと存じます。

以上でございます。

会長：ありがとうございます。進め方について何かご質問などありますでしょうか。

〔質問なし〕

会長：今回から、我々委員だけでなく、現場の各センター長さんの配置も一緒に記されています。

今まで委員同士で、活発なグループ討議をされていましたが、ともすると、我々常にセンターにいるわけではありませんので、もしかするとなんかピントがぼやけたり、焦点がずれる話なのかな、なんていうのもあるかもしれませんよね。ですので、必ずテーブルの中にセンター長さんがいらっしゃいますので、それでいいのかどうなのかということの意見の確認をしていただきながら、討議を深めるということでしょうか。

で、あくまでも二つの事例に対してのということではなくて、仙台市内全般のということでの、我々意見を提言していくということですよ。

事務局：はい。そうです。

会長：ということでよろしく願いいたします。

〔グループ討議〕

会長：では大変申し訳ございません。各グループでのお話しで盛り上がっているところ大変申し訳ないのですが、そろそろここまでの時間ということで、よろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。それでは、ホワイトボードを前のほうに移動いただいています。改めて、ちょっとホワイトボード全体を展望していただきまして、今から、各グループの社教主事の先生方から、話し合いの中身をお話しただいて、その後、委員の皆さんから、約1分以内でコメントをとというようなことで。

今からの話は、二つの事例を深掘りしたのをもとに、仙台市内全館に一般化できる視点ということで、成果と課題といった視点で見ていって、発言することにししましょう。

ではよろしく願いします。どちらのグループからでしょうか、

事務局（第3グループ担当職員）：はい。私からやります。

会長：はい、よろしく願いします。

事務局（第3グループ担当職員）：まず、私どもの方で、中野ふるさと学校のほうは、区中央市民センターの共催を離れて、地区館の方の自走型、そしてサークルの皆さんの自走型ということで、成果のほうを中心に挙げさせていただいておりました。

登頂証明書がとてもいいというようなご意見ですとか、清掃活動を、今話題のSDGsにもつながっており、よい視点じゃないかというようなご意見。

それから、この活動以外にも、高砂市民センターさん地域のためにいろんなところを実はやっている、そういう地道な、地道に地道におつきくではなくてやっていたのが、実を結んだ結果、こう、表彰とかですね、そのメディアの方に上げられるような活動になっているんじゃないかというご意見をいただきました。

一方、かつら情報局のほうは、これからまだまだ伸びしろがあるような事業ということで、館長さんの方からもいろいろお話しいただいたんですけれども、最終的には、震災時の安否確認のような仕組みとしても使いたいと——結ネットのほうですね——というような意見もいただきましたし、あとは、親子で参加するというのが地域の顔が見える関係づくりとしてすごくいいと。

一方、そのお孫さんとか、場合によってはお孫さんがいない場合でも、高齢の方が単身で参加できるようなところもぜひ用意していただけるとよいいんじゃないかというご意見がありました。

ちょっと地域で気になっているとか、やってみたいなっていう、できたらいいなということ、見事に具現化されているなという意見もいただきました。

あと桂音頭ですね。館長さんからお聞きしたんですけれども、実は高校2年生の民謡歌手の方が歌っているという情報をお聞きしまして。そういった高校生の方も借りて、この音頭ができ上がっているということがありました。

踊りというと、体操っていったものよりちょっとハードルが下がって、体を動かしやすい。踊りというワードの選択なんかもすごくよかったんじゃないかという意見も上がっておりました。

あとは今後ですね。LINE を使えるようになったことによって、LINE によるトラブルなんか起きてくる可能性があるということで、ネットマナーについての講座ですとか、すごい人気の講座で、定員で受けられない人達が出てくるということだったので、できるだけ受講できるような回数であったり定員であったりというのを、コロナとも見合いながらですけれども、やっていければということでご意見をいただいております。

会長：ありがとうございます。では2グループさんお願いします。

事務局（第2グループ担当職員）：こちらのほうとしては、まず、中野ふるさと学校のほうについて話をしました。中野ふるさと学校、長年やってこられたということで、成果としては、住民の方が自ら発信されている点、地域がいろんな思いを次世代に繋げるといって点がすごくいいなど。復興からのスタートというところで、やっぱりその思いというのが、地域のつながりをなくさない、未来につながる交流ということができているというのがすごくいいなど。

そういったところの、市民センターがその地域の思い具体化する、それが単純に引っ張っていくということではなくて支えていくという、地域の皆さんの思いを言葉だったり形にしていく、そういった市民センターの働きがすごくよかったんじゃないかなと。

その実状としては、拠りどころがなくなっただけでも、その逆転の発想ということで、地域のこれからの思いというのを形にしていったのがすごくよかったという話がありました。

では課題はということで、一つ具体で出てきたのが、ゴミ拾い、さらに定期的な開催ができればということで、ほかの委員の方から参考として話があったのが、深沼でも定期的にそのような活動をやっているんですけれども、やっていく中で石碑を見つけて、また新たな視点が出てきたり。そういう可能性もあるということでした。

そういった意味でいろいろと話していく中では、話題になっているのは、ちょっと桂の話ともつながってきて、部屋を分けることをやめて共通化するっていうことで、急遽やってみたんですけども。

やはり話題になっているのが、中野の方にも、もし可能であれば、こういう SNS の活用というのが今後考えられるのかなと。そうすることによってネットワークが拡大するというところで。その中で話題が出たのが、講師を呼ぶよりも、その地域の中での方々が、お互いに講師になって教えあうということも。

そういう話をしていく中で、桂は実際どうなのかなっていうところですが、桂は先ほど話もあったとおり、もともとの既存の民間会社のネットワークがありながらも、その町内の方については、やっていく中で互いに教え合う雰囲気になつたという話があって、すごくその話がよいなというふうになっておりました。

やはり、皆さんが高齢者の方だったり、使いづらそうだなっていう気持ち、その気持ちをできるだけ低くする、心理的ハードルを下げる手立てというものは、このかつら情報局は今、始まっているんじゃないかっていうことで。例えば、ドローンにしろゲームにしろ、子どもだけでなく親にも参加してもらうことによって、それぞれの住民の人達の心理的ハードルを下げていくということで、これが、よりその継続性を持っていく取り組み——こちらの方に書いていますけれども、持続可能な取り組みになっていくんじゃないかと期待されるということで、話がまとまりました。

以上になります。ありがとうございました。

会長：どうもありがとうございます。それでは第 1 グループお願いします。

事務局（第 1 グループ担当職員）：最初に、二つの事例とも、コロナ禍で中止することはすごく簡単なんだけれども、それをキープしてやり続けるというところがまず素晴らしいなというご意見がありました。

中野のほうはよさでもあり、これからの成果というか課題でもあるんですけども、人集めというところが、ちょっとキーワードになってきたかなという感じがします。中野のほうは、町内会のバックアップがすごく強力で、町内会のバックアップを受けての人集めということで、わりとうまくいっていたのだけれども、これからこういう事業をするときに、どういうふうにして人を集めていったらいいのかなっていう話になりました。

やっぱり人集めといったときに、幅広い世代の人を集めたい。そうすると、子どもを集めると大人がついてくる、逆に、子育て世代の大人を集めると子どもがついてくる、という関係性が実はキーなのかなという話になりました。そこで、市民センターでやっている他の子ども事業と上手くタイアップができれば、この人集めの一つのヒントになるのではないかなという話になりました。

余談ですけども、若い世代を集めたいといったときの若い世代というのがどのくらいなんだろうねという——町内会だと、60、70 はまだひよっ子でという話もいただいて、ここの若い世代はどのくらいなのかなという話になりました。

桂のほうは、まずデジタルというところで——顔を合わせて回していた回覧板の時代から、デジタルで回覧板が回っていくという、まずこの世の中の流れにすごいびっくりしたというご意見

がありました。デジタル化することによって、今まで町内会を敬遠してきた世代も実は参加しやすくなるのではないかなというお話しもありました。桂の地域性というか、連合町内会の会長さんがすごくお若いというところもあり、その現役世代、元気な世代の人達が、これから地域をつくっていったらいいよねという話になりました。

一方で、特定の人というか、今一生懸命やられている人がいなくなったときに、これがどうなっていくのかなという課題も出てくるかなと。

あとデジタルなので情報が沢山入ってくるんですけど、そういう情報の管理をどうしていくのか、というところも少しきちんとしていかなきゃいけないかなと。

それから教える側。LINE 講座とかスマホ講座もそうなんですけれど、教える側の責任——教えてしまったら、今ちょっと LINE の乗っ取りとかいろいろあるので、そういう教える側の責任も必要かなというところで。ただ桂の方では、長期計画でネットのとかもやるはずだったんですけども、コロナで中止になってしまって1回しかできなかつたなんてお話しもいただきました。

最後に、世代によってメニューを変えていく必要もやっぱりあるのかなと。今の小学生は GIGA スクール構想でいろいろやっているけれども、その上の保護者世代の人達はそういうこと——プログラミングなんてやってきていないので、そういう人達によっても、ちょっとこう内容を変えていく必要があるのではないかなというお話しになりました。

会長：どうもありがとうございました。

それでは、マイクを各テーブルに回していただきまして——皆さん入室の際にアルコール消毒していますので、皆さんそれでマイク回させてください。

きょうは大人参画事業について我々改めて検証、意見を深め合うという取り組みをしました。改めて今から、これからの仙台市民の皆様の大人参画学習についてよりよく——こうあったらいいんじゃないかなというポイントを、皆さんそれぞれの立場からのご意見を。済みませんが1分以内のコメントということをお願いいたします。

ではそちらのグループからお願いします。

委員：こうやって全体の発表、グループ討議の中でいろいろと聞かせていただいて、お互いに共有できる課題と解決策は多くあるんじゃないかなと。

そのときにやっぱり、その地域の特徴が——もちろん仙台市にいれば桂ってこういうところだろうとか、なんとなくわかるんですけど、こういうところでこういう背景があるから、こういう事業、でこういう対策。そうすると自分のところも似ているな、生産が中心っていうよりはどちらかといえば消費地、住宅地、寝に帰ってくるベッドタウンだとなると、じゃこれ取り入れられるとか、もう少し背景をわかりやすくいいながら共有できる場が本当にあると、こう取り入れようっていうふうになるのかなと思いつつながら。

こういうふうにディスカッションするとそうなるので、そういうのをうまく伝えられる場があるといいなと思いつつながら、勉強させていただきました。

委員：きょうは二つのすぐれた発表を聞かせていただいて本当に勉強になりました。特に最初の公民館の事業、地域住民が主体的に課題解決に取り組む方向性に向かっている流れの中で、きょうこの二つの発表を聞いたということですね。

その中で、やっぱり各世代を超えてたくさんのいろんな幅広い人を集めるということが何回も話題になってきて、どうすればいいかということが語られてきたんですけど、きょうの話の中でひとつ聞かせていただいたのは人集めのコツですね。どうやって古い世代から今の親世代、子供世代を引き込んでいくのかと。

ノウハウが少し提示されたと思いますので、ちょうどこれを大事にして他の館でも活用して、たくさんの方が参画して活力が出ればいいなと思いながら聞かせていただきました。

本当にどうもありがとうございました。

副会長：きょうは二つの発表をどうもありがとうございました。

中野ふるさと学校ではすごくいろんな事業をされていて、二つともそうなんですけども、コロナ禍の中でとても工夫してこのような事業をされたことを、すごいなと思いながら伺っていました。自分のところだったら、こういうのに参加してみたいなというのもいくつかありました。

それから桂のほうですけども、桂音頭がすごく耳に残っていて、ぜひ体操とか健康体操とかも見てみたいなと思いました。私は若林区に住んでいるんですけども、若林区もチャボ！というチャボ！の体操も歌もあるんだなと思いながら聞いていました。

若林区中央市民センター長さんが若林区も津波の被害にあったところだと話されて改めて感じたんですけども、そういえば深沼海岸で清掃活動をしているとか、チャボ！の方と一緒に冒険海岸公園のところで去年植樹をしたとか。

少しづつ幅広く活動をどこのセンターでもしてらっしゃるんだなと思いました。それで、できればそういうのを皆さんに広めていければなと、微力ながら思いました。どうもありがとうございました。

委員：ここの席に座ってとてもびっくりしたのが、ほかの委員と前にお会いしているということ。それから泉区中央市民センターと太白区中央市民センターの館長さんのお話を聞いてびっくりしたのが、私は高砂学区なんですけども、中野ふるさと学校——中野学校がなくなる時の、町内としていろいろとイベントやったりお邪魔していた、そのお話をたくさん知っていらっしゃった。その後のお話も、泉区中央市民センター長さんがその当時のことをお話ししてくださってすごくつながったんですね。なんとご縁のあるこのグループなんだろうと私はびっくりして、きょうはたくさん学ぶことができました。

それで中野ふるさと学校。蒲生の人たちが津波にあって、私も町内で青パトをやっている、いまだに蒲生地域に回ったりしてるんですけど、そうしたすぐ隣——田子、田子西と私達呼んでいるんですが、そこは石巻の方達もたくさん来てますが、ほとんどお家を建ててらっしゃるのが蒲生の方達なんですね。その中でやはりいろいろ、防災の方でもつながることがあって、一生懸命やってらっしゃるんです。そしてコロナ禍で、センター長さんのお話では、蒲生の人たち二つに分かれてしまったけども交通指導隊の人が田子西からからいまだにちゃんと通ってらっしゃるとか。本当に地域のつながりが昔からあるところで、ただそれだけで終わらせることなく次世代につなげていくと、本当に持続可能な——それを絶たないようにと努力されている。市民センターが引っ張るのではなく、本当にサポートしながら、中野の蒲生地区の方達を支えながら、ここまで来ているんだなということが、すごくお話しの中でわかりました。

そしてほかの委員から SNS の話を——もっと定期的に広めたらいいんじゃないか、そこには

LINE とかの力があってというのを、ちょうどまい具合に今度桂の話もさせていただき、聞くことができました。私がいろんな防災講座を開いていて突き当たるのが、例えばスマホを利用してここを開いてください。キキクルとか、雨の情報とか開いてくださいと言っても、ハザードマップはなんとか教えられても今度はスマホの教え方、そこから始めなくてはいけないことが多々ありました。地域のお話を聞いたんですが、地域の若者が高齢者の方とかに教えてくださると、講師の方よりもリラックスしながら教われるのではないかなと思いました。教えていただけると、今度はもっと他の知らない人に、いろいろサロンとかあったりして、そこで普及していくんじゃないかなとすごく自然に思いました。

きょう本当に私はすごく勉強させていただいたってことと、中野ふるさと学校、それからかつら情報局、とても楽しみながら楽しくお話を聞くことができました。ありがとうございました。

委員：きょう、今後これはたぶんコロナ禍を見据えて——今度アフターコロナということで市民センターもだんだんそういう方向にっていくのかなと。市民センターは人が集うところであって、きちんとハブ機能をはたしていただけないと、やっぱりなかなか難しいのかなということと、きょうの話の中で、引っ張るのでなくてそこでヒントをいろいろ与えて形にしていく。それが本当の市民センターの役割だってことで。生涯学習って誰でも簡単に導入ができるので、早く言えば楽しければ人が集まる。これがまず1個必要だと思います。

あと人が好きだと、また人をつないでいく場がどんどんできてくるので、そういう関係を市民センターを核にしてやっていただければ一番いいのかなと。

きょうの二つの事例は非常にいい話だったと思います。LINE に関しましては、仙台市の方でも今、LINE で情報をいっぱい発信していますけども登録者がまだまだ少ないので、せっかくのいい情報を取り入れてくれないというのがあるんで、そういうことも私たち議員がいろいろ広報を含めやっていきたいなど。そのように感じました。

委員：二つの事例のご報告をいただいて、一つは中野の取り組みについてはすごくアナログといいますが、顔を合わせてお互いに関係性を持ってやってゆくという、そういう特色があるなと思いました。

一方、桂の方は、新しいデジタルを使った活動ということで、震災も経てコロナも経てこれから次にというときに、このアナログとデジタルの両方が大事になっていくのじゃないかなと非常に強く感じました。そのように考えさせていただく事例であったなと思います。

それから中野の方でやられているこの清掃活動なんですけども、仙台市それから日本全体でも、また世界中でも、このSDGsの動きというのはすごく加速されておりますので、そういうところに向かってゆくような、活力が出てくるような——要するに地道なんだけれども、とても大事な活動というのを私たちが大切にしていけばいいのかなということをお話させていただいたなと思いました。

きょうはどうもありがとうございました。

委員：くしくもきょうは中野ふるさと学校で日和山の登頂証明書——前に中山市民センターにおいてになりました館長先生、同じ学区で担当していただいていたので大変お世話になって、畑を耕すのが大変だと言ったら、じゃ俺が耕運機持っていくからと言ってすぐ来てくれたのがその館長先

生でした。そしてその活動をずっと今も継続されているということで、やはり今、ほかの委員もおっしゃいましたが続けていくということが、まず継続ということが最大の力ではないかなと思います。

そして河北新報でも取り上げているのを何回か見たことがありまして、そのメディアがまた広報にもつながり、表彰にもつながったのかなということで、やはり核になる方がちゃんといらっしやって継続しているというところが強みかなと思いました。私も行ってみたいと個人的にも思っている活動です。

そしてかつら情報局なんですけど、できたらいいの具現化って担当の社会教育主事が書きましたが、そういう SNS——私も苦手な方ですけども、身近なところで町内会とかでも何かつながれば、その安全確認という意味でも非常に、これから絶対に必要になるものだろうと思っていたところですが、実際にもうやってらっしゃるということで、この事例を見習って、じゃ、うちでもと思うところがたくさん出てくるんじゃないかなと思っておりました。

やはり実際活動している市民センター、そして泉区中央市民センターが情報発信っていうところで担っていらっしゃるというお話しを先ほど伺って、その役割分担も非常にうまくバランスがとれてらっしゃるなと思いました。やはり人は宝だになって、そしてその取りまとめる市民センターっていう力、核になるところの今後にまた期待して勉強させていただきました。ありがとうございます。

委員：中野ふるさとの方の登頂証明書、1 回行ってもらいたいなと思ったり、あとかつら情報局のほうで LINE とかそういうのを勉強したいなと思ってました。

ここに来るのに毎回毎回——本当にいつも、私なんかただの主婦なので、事務の記事一つ一つが分からなくて、一つ一つ勉強で、辞書で調べています。

あと、人集めって言いましたけど回覧ですよ。ここで回覧板をどうやって回しているかってちょっと話題になりましたけど、うちのほうの地域では、本当はブザーを押して、その人が出てきて回覧を渡すとなっていたんですけど、みなさん忙しかったり、たまたま買い物でいなかったりして、ちょっとそういうときには、ブーと鳴らしても出てこないときは、悪いと思ってもポツと入れるっていう、みんなそういうふうにならなくなってしまったんです。でも今回の連休で本当に困りました。5 日間どこに行っているのか、たまたまちょっと近くに買い物に行っているのか、それがまったくわからないということで、回覧板をどうやって回したらいいかすごく困ったんですよ。本当に自分の隣同士っていうか回覧の順番の方達だけにでも、二、三日ちょっと留守していますとか、ちょっと出かけてます——買い物に行くときは関係ないんですけどね——1 週間いませんか、そういうふうに伝えるような近所のコミュニケーションができればいいなってちょっと思いました。

市民センターさんの回覧も回ってくるんです。ところがいつもチラシ 1 枚だけなんです。いいなと思っていてもメモしたりをちょっと忘れると、もういいやってなっちゃうんです。そうではなくて、カラーでなくてもいいです。白黒でも何枚か町内に配っていただければ、ちょっと 1 枚抜いてもいいですよとかとなっていたいただければ、もっともっと参加する方がいるのかなと思っていました。

会長：ありがとうございました。

本日も事務局の皆さま方の事前の周到な準備と、社教主事の先生方の当日の名進行、どうもありがとうございます。そのおかげで我々も深く議論することができました。先ほどお伺いしたら、社教主事の中のお一人が今年度上野の社会教育実践研究センターでこの公運審の会議の発表をされるということで、ぜひ仙台市内のいろんな市民センターの素晴らしい取り組み、さらに全国発信どんどんされるといいですね。どうもきょうもお疲れさまでした。

次に (2) のその他ですが、皆様から何かございますでしょうか。

〔発言なし〕

会長：よろしいですかね。では事務局にお返しいたします。

4 その他

事務局：本日はどうもありがとうございました。

それでは最後、次第4のその他ですが、特に意見はございませんでしょうか。

〔意見なし〕

5 閉会

事務局：それでは、次回の会議日程ですけれども、令和4年の7月7日、木曜日の午前10時、会場はこちらの生涯学習支援センター5階第1セミナー室を予定しております。

開催案内は開催1ヵ月前を目安にお送りいたします。よろしく願いいたします。

以上で本日の会議を終了いたします。皆さんご協力ありがとうございます。お疲れさまでした。

以上

会 長

会議録署名委員
